

「賜物を生かして互いに仕える」

理事長・チャプレン 井上 良作

あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。

(ペトロの手紙一 4章10節)

清教学園中学校・高等学校に入学された新入生のみなさん、ようこそ清教学園へ。上級生に進級した2・3年生のみなさん、短い春休みを終えていよいよ新学期です。新しい制服を身にまとい、新しい教室に入り、新しい仲間と出会い、気分一新して学園生活が始まります。

2021(令和3)年、清教学園は創立70周年の記念すべき年を迎えました。

1951(昭和26)年、大阪の南端、金剛山麓の農村であった河内長野に清教学園中学校が誕生しました。日本のキリスト教主義私学の多くはミッション・スクールと呼ばれ、欧米宣教団体の豊富な資力を背景にしてできた学校です。清教学園は日本基督教団大阪長野教会(現・河内長野教会)という一つの地域教会の教育活動である「清教塾」という小中学生たちのグループによる中学校設立運動から生まれました。1945(昭和20)年の敗戦による荒廃の中で生きていた当時の小中学生たちは、国破れてもなお生きるに甲斐ある人生があるのか、何が永遠に滅びないものかを懸命に探し求め、神様に真剣に祈り、学び、働きました。若者たちの真摯な姿は教会や地域の人々、国内の有力者や海外の教会の人々の心に響き、援助の手が差し伸べられ、ついに清教学園は誕生したのです。現代で云うクラウドファンディング・ビジネスのようなものも全くない時代にこのようなことが実現することは、私たちの想像を超えるような奇跡的な体験であったことと思います。神様は生きておられて、真剣に祈り行動する者の夢を叶えてくださるのだと思います。

今年度の学園聖句・標語は、清教学園の先輩たちが創立の時からモットーとしている教育理念を表しています。『あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから』、創造主である神様は私たちすべてのひとり一人を善い者として、最高傑作として造りました。みなさんはありのままに創造主に愛され望まれて生きています。ですから、人に気に入られるための努力は必要ではなく、努力は自分の周りを照らすために用いるのです。それが『神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。』という言葉の意味です。みなさんには善い賜物が授かっている(一つではない)ことを覚えてください。そして、それを見出し、磨き、今日と明日に生かす青春時代を大いに楽しんでいただきたいと思います。それこそがこの学園を汗を流し作った人々の願いであることを覚えていただきたいと思います。